

研 究 所 彙 報 IX

— 1963.1 ~ 1963.9 —

《学会および研究会報告》

※一宮史談会

(63年4月14日, 於一宮市立図書館)

「尾張藩の市場政策について」

森 靖 雄

※高浜町商工会窯業対策委員会

(63年4月25日, 於高浜町赤瓦会館)

「三州瓦産業の現状と問題点についての実態調査報告」

森 靖 雄

※赤松文庫読書研究会

(63年9月29日, 於磐田市赤松文庫)

「奈良時代の磐田市周辺」 鈴木 泰山

《現地調査》

(A) 三州瓦工業の実態と問題点

53年1月10~12日, 森所員は碧海郡高浜町において, 瓦・陶管・土器等製造業の将来性についての聞き取り調査をおこなった。

(B) 東三河地方の中世文化調査

63年1月24日, 久曾神所員ら10余名は豊川市豊川町において中世史料の採訪をおこない, 文献の不備を補う史料を得た。

(C) 「あらたまのきへ」裏付調査

63年1月から9月初めにかけて, 夏目所員は万葉集所載「きへびと」解明のため, 内野二本谷積石塚古墳群および三方原台地古墳群の一部を調査し, 秦氏の機織伎人集団の定着遺跡および万葉遺跡を推定した。

(D) 豊橋商業高校卒業生就職動向調査

63年2月4日, 森所員は昨年ひきつづき県立豊橋商業高校3年生について, 就職動向に関する調査をおこなった。

(E) 阿久比谷の虫供養と曹洞宗の三河三箇寺調査

63年4月23~27日, 鈴木泰山所員は虫供養と中世仏教伝流系統の裏付け史料を得る目的を

兼ねて, 知多郡阿久比町周辺と三河滝・八幡・伊奈地域を調査した。

(F) 橋逸勢遺跡調査

63年4月29日, 久曾神所員ら約50名は, 標記遺跡再調査の基礎調査をおこなった。

(G) 志摩漁村総合学術調査

63年5月26~28日, 川越, 島本, 歌川, 牧野, 森所員は他の調査団員と共に, 文部省科学研究費による標記の予備調査として, 志摩半島南部各村を調査した。

(H) 宝飯地方文化遺跡

63年6月1日, 久曾神所員は5名の同行者を伴って, 宝飯郡中部地区における文化遺跡所在地の確認調査をおこなった。

(I) 橋逸勢墳墓伝説地の調査

63年6月, 夏目所員は橋逸勢の墳墓地と伝えられる静岡県袋井市山梨町用福寺とその付近を調査したが, 確認できなかった。

(J) 商品流通の展開に伴う山村構造の変容

63年7月25~31日, 森所員は村長利根朗助教授や愛知大学経済史研究会員28名と共に, 近世中期以降三信中馬の発達にともなって, 沿路村の構造がどの様に变化したかを知るため, 北設楽郡稲武町大桑および中当両地区を調査した。

(K) 志摩漁村総合学術調査

63年7月10日~8月20日, 川越, 島本, 歌川, 牧野, 森所員は他の調査団員と共に, 志摩郡内46カ村について社会学的調査をおこなった。

(L) 輪中集落における共同体的関係の解体

63年8月25日, 森所員は前年調査の補充と写真撮影の目的で, 大垣市から桑名市に至る間の輪中地帯を縦走調査した。

(M) 志摩漁村総合学術調査

63年8月27日~9月3日, 川越, 島本, 歌

川、牧野、森所員は他の調査団員と共に、志摩郡一円の村々について漁村の構造・制度等を知るための聞き調査をおこなった。

(N) 菰野財産区運営に関する資料調査

63年9月4～8日、森所員は黒木三郎教授や愛知大学法社会学研究会員と共に、三重県三重郡菰野町に滞在、同財産区事務局の所蔵する書類の調査をおこなった。

(O) 真珠産業の浸透と村落構造の変容

63年9月23～27日、島本、牧野所員は村長利根朗助教授と共に志摩郡浜島町において、真珠産業の発展に伴う村落構造の変容についての聞き取りと、同漁協の所蔵する資料類を調査した。

(P) 明治初期製糸工場の実態

63年9月24日、森所員は四日市市室山町において、昨年来継続中の機械製糸創業期の研究に関する補充調査をおこなった。

(Q) 駿遠2国新羅人叛乱の史実究明

62年9月以来2年間の予定で、夏目所員は「日本紀略」弘仁11年の条に見える新羅人の叛乱とその住居址を推定するため、静岡県引佐郡新羅堂址付近を調査しつつあるが、今のところ確証は得ていない。

《著書・論文》(『』は著書、『』は論文)

○久曾神昇所員

「賀歌と蓬萊切」かな研究10輯(63年1月)

「国歌『君が代』の歌詞の変遷」愛知大学文学論叢25輯(63年2月)

「万葉集『三山歌』の反歌」金城国文9巻2号(63年3月)

「慈円の和歌懐紙」かな研究11輯(63年4月)

「万葉集抄切」かな研究12輯(63年7月)

○見城幸雄所員

「隠地禁制について(一)」愛知大学法経論集42号法律篇(63年8月)

○夏目隆文所員

「『白羽の磯』・『簀の浦』考 万葉地理私注の一」大谷大学国文学会会報15号(63年3月1

日)

○堀井令以知所員

「言素論における融合とカタリシス」愛知大学文学論叢25輯(63年2月)

「『お湯殿の上の日記』の文体」言語研究(63年2月)

「être と avoir」フランス語フランス文学研究(63年5月)

○森靖雄所員

「商業高校女子の就職について」中部地方総合史学研究会研究資料3号(63年2月)

『菰野財産区有文書集 上巻』(共編)宗文館書店(63年5月)

《昭和38年度研究所組織》

所 長 久 曾 神 昇

所 員 浅 若 晃 歌 川 学

川 越 淳 二 久 曾 神 昇

見 城 幸 雄 近 藤 恒 次

島 本 彦 次 郎 鈴 木 泰 山

鈴 木 中 正 夏 目 忠 男

中 出 惇 堀 井 令 以 知

牧 野 由 朗 森 靖 雄

運営委員(庶務)川 越 淳 二

(企画)島 本 彦 次 郎

(資料)堀 井 令 以 知

(編集)歌 川 学

助 手 森 靖 雄

事務嘱託 大 嶽 由 美 子

《所員会議》

63年5月9日所員会議を開催。前々年来検討してきた本研究所規定の改正案につき、運営委員会原案を若干修正の上決定した。これに伴って学外所員および学外研究員制度が新設され、新たに夏目忠男所員を迎えた。

同日。任期満了にともなう運営委員改選の結果、前任各委員が全員再選され、前掲のような分担で63、64年度の研究所運営にあたる事になった。